

年頭のご挨拶

国連国際惑星地球年の活動(2007-2009年)に積極的に参加しよう

佃 栄 吉¹⁾

年頭にあたりご挨拶申し上げます

国連の国際惑星地球年(UN International Year of Planet Earth; 2008)の活動が本年から始まりました。日本学術会議地球惑星科学委員会の下にこの国際惑星地球年の国内委員会を設置し、日本国内の活動を集約しています。そして、この活動の事務局を産総研地質調査総合センターが担当しています。すでにホームページを開設し、国内で積極的に活動を展開されようとしている学会・研究機関のサポートを始めております。どうぞ<http://www.gsj.jp/iype/index.html>のサイトをご参照ください。1月22日にはその開催宣言のセレモニーシンポジウムを行います。

この国際惑星地球年(IYPE)は災害、資源などの10の科学プログラムとアウトリーチプログラムからなり、「社会のための地球科学」を副題に掲げ、強く社会的貢献を意識した活動です。独立行政法人産総研の地質調査総合センターとしては、社会的役割を模索し研究戦略を掲げておりますが、内容的にはこのIYPEの理念に非常によく合致しているものと理解しています。関係する機関と協力をしながら、日本IYPE国内委員会の中核機関として活動を展開していく所存です。皆様のご理解とご支援をよろしく願います。

なお、IYPEのアウトリーチ活動として、日本のジオパークの設立、「地質の日」の制定に向けて大きく前に踏み出したいと考えています。日本地質学会が推進し産総研が協力をしている日本のジオパーク設立のための活動(<http://www.geosociety.jp/organization/geopark/>)としては、今後、国内の認証組織としての「日本ジオパーク委員会(仮称)」などの具体的体制の確立、また、ジオパーク設立に意欲のある地域ネ

ットワーク構築が重要と考えております。また、「地質の日」につきましては、5月10日をその日として、関係する学会や組織から共同提案者を募り、本年から活動を開始できるようにしたいと考えております。

昨年是我々の研究戦略の5番目の目標に掲げている「グローバルな地質情報ネットワークのために、アジアでのイニシアティブを発揮する」について、大きな進展がありました。私が昨年1月から、地球科学における政府間組織である「東・東南アジア地球科学計画調整委員会(CCOP)」の管理理事会議長に就任したこともあり、日本のイニシアティブ発揮のための体制強化として、「CCOP国内支援委員会」を発足させ、外務省、経済産業省、外部研究機関、関係組織の方々にご参加いただき、ナショナルレポートの作成や情報を共有できる場ができました。アジアの持続発展可能な社会構築・人間の安全保障への貢献として、重要な柱として大きく育てていきたいと思っております。

「地質調査総合センター(Geological Survey of Japan, AIST)」が地質情報に関する日本の中核としてハブ機能を果たすことが重要と考えています。ボーリング情報など地質情報の公共財化へ向けた活動も一層進め、その基盤情報をより使いやすくするための標準化、品質管理、データベース構築、「GEO Grid計画」などの新技術の導入により、安全で安心な社会の構築、社会の変革に貢献できると自負しております。そのためにはさらに外部との連携を図り「イノベーション・ハブ」としての機能を発揮する必要があると考えています。

今後とも皆様のご期待にお応えできるよう努力する所存ですので一層のご支援をお願いいたします。

1) 産総研 研究コーディネータ(地質担当)
地質調査総合センター 代表

キーワード: 国際惑星地球年, ジオパーク, 地質調査総合センター,
産業技術総合研究所, Geological Survey of Japan,
社会のための地球科学